

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより(11)

「戦後」と「戦後池田」 について考える(22)

家族モデルと団地

「夫は仕事、妻は家事・子育てを
行って、豊かな家族生活をめざす」
(山田昌弘『迷走する家族』)。これ
が高度経済成長期に確立された標準
的な家族モデルという。夫は月給取
り、妻は専業主婦、子どもは二人程
度の核家族。その子どもが「良い学
校を出て、良い会社に入る」ことが
めざされた。1955(昭和30)年
に7・9割であった全国の4年制大
学進学率は、1975年には27・2
割に達した。高等学校進学率は90割
を超えた。

前号で触れた団地族は、高度成長
期の家族モデルを代表した。2DK
の間取りによって、食事の場所と寝
る場所を分け、子ども部屋を確保す
るのが可能になった。入居者は20歳
台後半から30歳台が多く、家賃は5
千円余り、その5・5倍の収入が入
居の条件で、ある程度高給取りであ
ることが必要であった。朝はパン
食、プライバシーの意識など、団地

族はモダンで合理主義的な生活感
が強かった(青木俊也『団地2DK
の暮らし』)。

五月ヶ丘団地の暮らし

1959年
に入居が始ま
った五月ヶ丘
団地は、予定
総戸数1万5
000戸余り
の大団地であ
る。その五月
ヶ丘団地に早くから住んでいた
方々から、当時の暮らしぶりをお聞
きした(2008年10月23日採訪)。



整然と並ぶ五月ヶ丘団地 (1964年)

団地生活は「皆さんねえ、憧れて
ましたですよ」と言うだけに、入居
の競争は激しかった。25回申し込ん
でようやく特別枠で入れた人もい
る。多くは大阪市内に勤めと住居を
持ち、結婚や子どもの成長を機に、
「環境が良い」「生活のレベルが高
い」などの動機で五月ヶ丘団地をめ
ざした。当初に入居した人はバスの
本数が少ないなど、生活に不便など
ころもあった。しかし団地内に写真
屋から喫茶店までそろったトップ
センターができ、幼稚園や小学校、
診療所もできた。一応、団地内だけ
で日常生活ができるようになった
のである。

付き合いと自治意識

勤め人には、勤務と通勤の時間が

ある。当時の日本の年平均労働時間
は2200時間余り、西ヨーロッパ
諸国と比べ400〜500時間長か
った。退勤後の会社仲間との付き合
いもあり、勢い最終のバスに乗り遅
れ、駅から団地まで登り坂を歩くこ
ともあった。ある男性は「せやから、
平時はほんまに、寝るだけやった」
「近所の人がどういいう方かも知らん
かった」と語る。

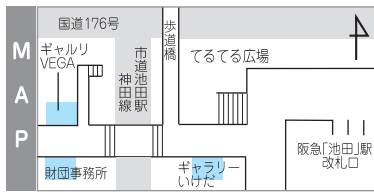
団地内の付き合いは主に主婦が担
った。住居棟の階ごとに「当番制で
お掃除」をするのが、付き合いの始
まりになったという。団地自治会は
入居開始の翌年、1960年に作ら
れた。旗振り役は市議会議員の団地
住民。自治会役員を長く務めた男性
は語る。「やっぱりそういった組織
を作ることによって、自分の地盤と
いうもんが(略)確立できるわな」。

自治会の婦人部が、石油ショック
(1973年)に際して物資のま
め買い運動を展開。また、自治会は
家賃値上げ反対や断水防止などの住
民運動も活発に行なった。「婦人会っ
ていうんじゃなくて、自治会の中の
婦人部」「ここには婦人会、ないで
すもんね」「(婦人会とは)全然活動
の範囲が違うからね」。団地の自治
活動は、旧来の地域婦人会のものと
違うと感じられていたようである。

(池田市史編纂委員会副委員長・芝
村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史
編纂(☎754・6674)

ギャラリー コーナー



【ギャラリーいけだ】

- 糸で描く二つの故里ー山本節代刺繍展ー 10/1(水)~6(月)
- 汪洋 洋画展 10/8(水)~13(祝)
- 布絵作品展 (横関千恵子) 10/15(水)~20(月)
- 猿渡士郎個展 (絵画) 10/22(水)~27(月)
- 出口彰水彩画展 10/29(水)~11/3(祝)

【ギャルリVEGA】

- 第8回アトリエ“創”作品展 10/1(水)~6(月)
- 汪洋 洋画教室展 10/8(水)~13(祝)
- 塩屋信敏「椿と桜島の作品展」 10/15(水)~20(月)
- アクリル絵画 吉永沙母個展 10/15(水)~20(月)
- 第5回佐々木教室絵画展 10/22(水)~27(月)
- 江原和足展 レールのある風景ー昭和の残像ー 10/29(水)~11/3(祝)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】

火曜日

【入館料】

無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円(展示販売不可)
〈ギャルリVEGA〉155,000円(ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】

水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】

使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより(12)

「戦後」と「戦後池田」
について考える ⑳

池田市の地域婦人会

前号で「五月ヶ丘」団地の自治活動は、旧来の地域婦人会のものと違ふと感じられていたようである」と記した。では、地域婦人会はどんな団体だったのだろうか。

池田市の地域婦人会の発足は1950(昭和25)年。1952年には全市の連絡協議会が組織され、1970年代に名称を池田市地域婦人団体協議会に改めた。戦後の地域婦人会は、占領軍の指導のもとに組織され、池田の地域婦人団体の結成と拡大には、当時の池田市教育課の働き掛けもあった。

橋川栄さんは、1955年に北今在家(現豊島南ほか)の婦人会長、1964年から2008(平成20)年まで、池田市の地域婦人会トップの協議会長を務めた人である。その橋川さんのお話しの記録(2007年11月19日採話)をもとに、池田市の地域婦人会の成り立ちと活動を見てみたい。

大家族の嫁から婦人会活動へ

橋川さんは、北今在家の農家に嫁いだ。最初の子どもが1944年に誕生したというから戦時中である。北今在家は高度成長の初期まで、まだ農村地帯であった(連載⑭)。「そこ(嫁ぎ先)はね、ごっつい大家族」「兄弟6人でしょ、ほんで、親いてはるでしょ、おばあさんいてはるでしょ、おばあさんの妹がいてはるますねん」。大家族の嫁には、大変な気苦労があったという。

そんな橋川さんに、ある日、村の有力者が「なんや用事があるとか言うて、呼びに来てくれはりました」。北今在家に婦人会を作る集まりだった。行くのは嫌だったが「うちのその大きいおばあさんね」「行けえ！」って言うて、「肩を押してくれ。それで橋川さんは、婦人会に「知らん間に足つこんでん」という次第となった。婦人会の中心は地元の「屋敷娘さん」、地域に新来の女性は「ちよっと弱い」。当時の状況について、橋川さんはそう語る。

清掃、婦人学級、市議会選挙

橋川さんの婦人会での活動は、多種多様である。地元の北今在家では、広場の清掃や主婦のへそくり稼ぎの貯金活動。池田全体では年に10回開く「婦人学級」など。協議会の会長就任以後、消費者問題研究会、社会福祉協議会の役員、民生児

童委員も務めた。市主催の行事に婦人会が踊りを披露する。年末の夜回り、共同募金も。1963年の市議会議員選挙で



池田駅前で行われていた婦人会の活動(1969年)

は、婦人会を挙げて前任の協議会長・弓庭富士子を推し、当選させた。行政トップとのつながりも強かったことがうかがえる。武田義三市長が引退し、市民病院に入院したとき(1975年)、武田から「橋川さん、若生があんたんとこで世話になってんねんなあ」と感謝の言葉をかけられた。若生正は、このとき武田の後任として市長選挙を戦っていた。橋川の家で、若生選挙の後援者のため「御飯炊き」をしたことへの感謝があった。

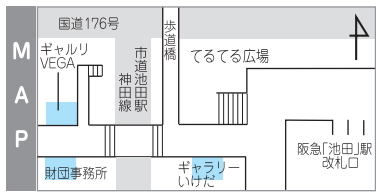
橋川さんは自ら「マメ」という。長年の活動がすべてメモされている。婦人会指導者としての力量は、この几帳面さに加え、大家族の嫁の気苦労が培ったのかも知れない。

(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

※10月1日号で、五月ヶ丘団地の予定総戸数「1万5000戸余り」とあるのは、「約2400戸」の誤りでしたので訂正いたします。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 出口彰水彩画展 ~11/3(祝)
- 松村一雄個展「心のふるさとを求め」 11/5(水)~10(月)
- 河合絵一・音色画展 E'chi KAWAI Exhibition 11/12(水)~17(月)
- ELAND' OR 2014 ステンドグラス 律子・美紀展 11/19(水)~24(月)
- たちおか帽子&由意父娘展 11/26(水)~12/1(月)

【ギャルリVEGA】

- 江原和足展 レールのある風景-昭和の残像- ~11/3(祝)
- 伊藤岳回顧展 11/5(水)~10(月)
- 手作り五人展 11/12(水)~17(月)
- 想い出の墨彩画展 伊藤友梨 11/12(水)~17(月)
- 第9回朝日カルチャー-川西教室ボタニカルアート展 11/19(水)~24(月)
- 水墨画若狭州個展 (併設) 箕面紅葉会展 11/26(水)~12/1(月)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】 火曜日、年末年始

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円(展示販売不可) 〈ギャルリVEGA〉155,000円(ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより(113)

「戦後」と「戦後池田」

について考える ⑳

池田市最後の大団地

10月号で五月ヶ丘団地、11月号は地域婦人会を取り上げ、高度成長期の新旧両地域での地域活動を紹介した。この号では伏尾台を見たい。

伏尾台は1972（昭和47）年に入居が始まり、完成したのは1985年。建設の時期は五月ヶ丘団地に比べ10〜20年後で、ポスト高度成長期に当たる。阪急不動産が手がけ一戸建て住宅、集合住宅、タウンハウス、公共住宅など多様な住宅が建設された。保育所や幼稚園、小・中学校、高等学校がそろう、大小の公園も整えられた。伏



造成が進む伏尾台（1983年）

尾台は、街の中心から離れた市域の北西端にある。予定人口は8千〜1万人。おそらく池田市最後の大団地であろう。

森岡民子さんは1977年に伊丹市から、大西愛さんは1983年に大阪市から伏尾台に転居した。お二人は、ボランティアとしてさまざまな地域活動に関わった（2009年5月27日採話）。

伏尾台の生活と地域活動

森岡さんが引越したときには、池田の中心街と結ぶ路線バスもなかった。定員25人の幼稚園はお子さんが一期生。夕方5時に鳴るチャイムも募金で作るなど、「予算がなかったから手作り」でスタートした。大西さんが伏尾台に住んだときは、造成も大分進み、路線バスもできていた。しかし、「パイパスが無かったんですよ。それで（国道423号と173号は）必ず混んでた。だから降りて、前のバスに乗って、でまた停滞したらまた降りて、（池田駅まで）1時間かかったことがあった」。パイパスとして、阪神高速道路大阪池田線の延伸部が完成したのは1998（平成10）年のことである。

地区内では、ゴルフ場に行く車が「バンバン通って」危険であった。それで母親同士が手を組んで「一方通行」を要望したり、子供のいる家の周辺を「足型つけて家から出るときはストップ、もう少し待ちましょうね、とかそういうマーク」を付けて回った。手作りの運動会、夏祭りもした。保育所一期生が小学校に上がるころから、学童保育が始まった。

伏尾台は異なる地域のさまざまな職業の人で構成されている。神社もなければ、古い慣習もない。「何もないところから始まるから、逆から言えばみんな平等」。年代もほぼ変わらない。「努力して一緒にやっていこうっていう気持ちがあつたと思うんですね」。「しないと何にも無いから」。自治組織の在り方も少し違う。自治会が地域活動のほとんどを担い、婦人会や衛生婦人会、日赤奉仕団などはないという。

もの言うボランティア

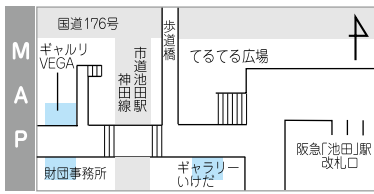
大西さんは子どもを私立の保育所に通わせたが、そこは「幼稚園風」。発表会などは盛んにやるが、日常生活はちゃんとできていないと感じた。そこで保護者会を作り、「きちんと手を洗わしてください」「もつとタオルを変えてください」などの要求を出した。小学校の懇談会でも、保護者から活発に意見が出された。森岡さんは、「自治会なんか討論の場みたいな感じ」と語る。ボランティアをする人たちは、積極的に行動し発言する人たちであった。そこから地域の絆も生まれた。

「市民」という言葉が1960年代に普及した。お二人の姿から、その言葉が思い浮かぶ。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- たちおか帽子&由意文娘展 ~12/1(月)
- 赤土尚堂・菜香二人展
~書+ガラスアートのコラボレーション~ 12/3(水)~8(月)
- 追懐 伊藤岳水彩画展 12/10(水)~15(月)

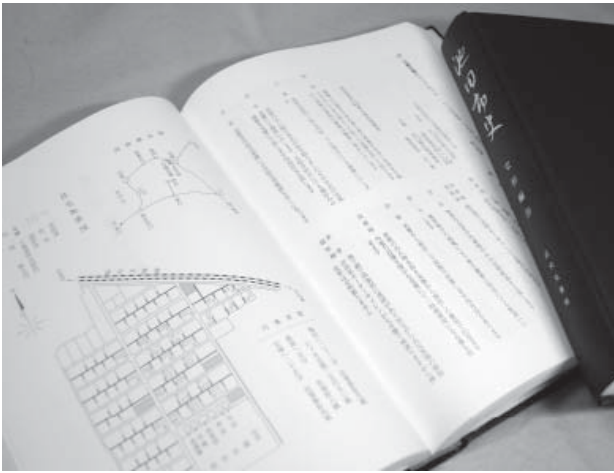
【ギャルリVEGA】

- 水墨画若狭州個展（併設）真面紅葉会展 ~12/1(月)
- Ki:Ki工房
山下宏樹・山下マキコ作陶展「テノヒラサイズ」 12/3(水)~8(月)
- 松下由典 木の家具・木の小物展 12/3(水)~8(月)
- 高城芳治写真展「野鳥彩時季 Part II」 12/10(水)~15(月)
- 大阪青山大学・大阪青山短期大学
第9回「アソビと造形」展 12/17(水)~22(月)

【開館時間】

10:00~19:00（最終日は16:00）
【休館日】 火曜日、12/24(水)~1/5(月)
【入館料】 無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉50,000円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉155,000円（ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可）
【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間
【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
☎750・3333



わがまち
歴史散歩

『池田市史』史料編⑩

近代史資料を刊行

史料編とは膨大な史料の中から特に重要と思われる史料を選択し、翻刻して収録したものです。今回刊行した『池田市史』史料編⑩（近代史資料）は、明治維新から太平洋戦争終結までの時期を対象とし、この時代の池田の歩みの特徴付ける史料を精選・収録しました。

市史編纂だより⑪

池田の「ルーツ」を示す史料

史料を通して、今の池田の姿の原形に触れることができます。

明治の初め、現在の池田市域には20余りの村がありました。このうち七つの村で、村の詳細な調査報告書「村誌」が残されています。「村誌」は当時の村の様子が分かる一級史料です。また、明治政府は近代国家建設のため国民皆学をめざし、全国に小学校を設置しました。池田でも地域の人たちの手によって小学校が開校されます。これら小学校の沿革誌もできる限り収録しました。

明治末の43（1910）年、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）が梅田―宝塚、石橋―箕面間で営業を開始しました。これを契機に沿線では住宅開発が進み、特に池田の室町住宅は有名です。住宅と観光のPR雑誌『山容水態』や耕地整理の記録などから、全国に先駆けて郊外住宅都市へ変貌していく池田の姿をうかがうことができます。

市民の日記や幻の地方新聞も

一般的に戦時下の行政文書は戦後すぐ焼却処分されたため、今日まで残るものは少ないとされています。しかし、幸いなことに、池田では幾つかの文書が残されていました。それらの中から防空壕、勤労動員、戦火による災害など特に市民生活に関わるものを収録しました。

また、市民が作成した戦時期の記録として、大日本婦人会活動記録と、入管までの日々をつづった高等商業学校生の日記を取り上げました。これらの記録から当時の市民のありのままの声が伝わってきます。

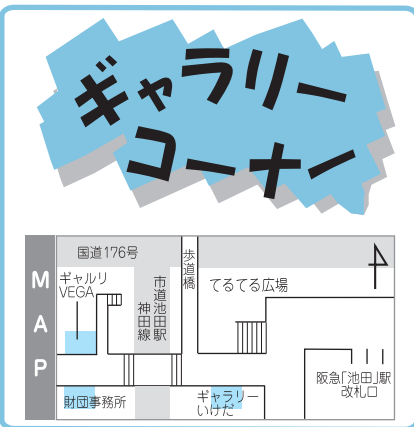
近代の池田の特徴の一つに、池田のもつ豊かな文化性があります。さまざまな文化活動が繰り広げられましたが、この史料編では、明治期に池田で創刊された雑誌と新聞を一つずつ紹介しました。『会友文林』は豊能高等小学校の教師と生徒らによって文章の研さんがめざされた会誌です。『縦横新報』は社会主義への共感が打ち出された地方紙です。またかつて紙面が紹介されるのは今回が初めてで、今後注目の史料の一つです。

ぜひ市史をご覧ください

古い史料の中には墨で書かれ、読みにくいものも多いのですが、本書では活字に直していますので、読みやすくなっています。史料は歴史をひもとく原点、その解釈は自由です。史料そのものから池田の歴史を見つめてみてはいかがでしょうか。

図書館本館・石橋プラザ・市役所の行政情報コーナーでご覧いただくことができます。ぜひ、一度手にしてみてください。また、市役所などで販売（5000円）もしています。

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）



<p>【ギャラリーいけだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●久保義裕「絹絵の世界」展 1/7(水)～12(祝) ●「染」山村將嘉・天野朝春二人展 1/14(水)～19(月) ●能面と藍染めによる複合写真展「鎮魂（しずめ）の舞」天知輝夫写真展 1/21(水)～26(月) 	<p>【開館時間】 10:00～19:00（最終日は16:00）</p> <p>【休館日】～1/5(月)、火曜日</p> <p>【入館料】無料</p> <p>【使用料】 〈ギャラリーいけだ〉50,000円（展示販売不可） 〈ギャラリーVEGA〉155,000円（ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可）</p> <p>【使用期間】水～翌週月曜日の6日間</p> <p>【申し込み】使用希望月の1年前から</p> <p>使用申し込みは いけだ市民文化振興財団 ☎750・3333</p>
<p>【ギャラリーVEGA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●徳治昭童画展 1/7(水)～12(祝) ●“ほっこりワールド”コラボレーション2vol.7 ●第15回京都きもの絵師とその仲間達展 1/14(水)～19(月) ●蜻蛉舎 大三元展（写真展） 1/21(水)～26(月) ●Art studio夢工房半蔵作品展 1/28(水)～2/2(月) ●第12回 大野恵泉作品展 1/28(水)～2/2(月) ●歌川広重東海道五拾三次と花鳥画の世界― 	

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑪

「戦後」と「戦後池田」

⑮について考える

近代と戦後

前号の「わがまち歴史散歩」では、刊行したばかりの『池田市史・近代史料編⑩』が紹介された。1869～1945（明治2～昭和20）年に至る池田の近代史資料を収録したものである。眺めて見ると、近代池田、近代日本の移り変わりを実感する。文体にしても「有之（これあり）」と江戸時代と変わらない『村誌』から、「である」と現代文調の「橋本雅夫日記」にまで変遷している。ということ、戦後と戦後池田を考える」は一回のお休みをいだいたのだが、近代の変遷を実感して改めて驚くのは、その時間が敗戦後から今までとほぼ同じという事実である。2015（平成27）年は敗戦から70年目。戊辰戦争での官軍勝利から日本の降伏による第二次大戦の終了までと、数年の差である。

現代と近代

実は目下、史料編⑩に続く⑪の編

集作業をしている。敗戦後から20世紀末までの池田市資料を収める。この時代は「現代」と呼ばれることが多い。歴史の流れを古代、中世、近代に大きく区切るやり方は、ヨーロッパのルネサンス期に始まったと聞く。輝かしい古代、暗黒の中世、古代の輝きを取り戻した近代というわけである。ついこの間までは、マルクス主義の発展史観の影響も強かった。人類は奴隷制の古代、封建制の中世、資本主義の近代、社会主義の現代へと発展するとした。

しかし、社会主義体制は1990年前後に東欧、ソ連と相次いで崩壊した。「社会主義とは、資本主義から資本主義へと続く暗いトンネル」と称される始末である。現代とは単に「今と同じ時代」ということを意味するようになった。現代日本を敗戦後に始まるとするのは、教科書にも使われる多数説である。日本は戦後に基本的な世界標準の近代国家・近代社会の体制を整えたのだから、確かに戦後は日本にとって大きな時代の区切りといえる。制度や人々の心性を含め、戦前との連続性が残るとしても。

戦後の終わり？

現代の始まり？

池田市史の現代史料編では、戦後を敗戦と戦後改革・復興の10年、高度経済成長の20年、その後20世紀の終わる25年と時代の流れを大まかに

分ける予定であるが、最後の1975（昭和50）年以後の25年の捉え方については、大いに迷っている。高度成長を経て20世紀末に至るまでに、時代はすっかり変わってしまったからである。

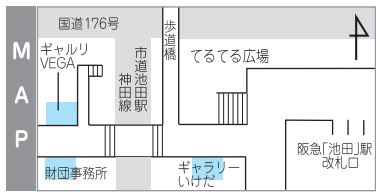
戦後の特徴を「成長神話」の継続とすれば、日本では1990年にそれは終わった。世界的なベストセラーのトマ・ピケティ『21世紀の資本』によれば、第一次世界大戦（1914年）以後の世界は近代史で例外的な時代であって、70年代～90年代に顕著になった低成長と格差が普通の姿ではないかという。そして、いかに格差を克服するかが探られている。戦後の国際的枠組みであった冷戦も、1990年前後に終了した。戦後は終わったのか？ 今の時代、すなわち現代は90年代から始まったのか？ こんな迷いを頭の隅に置きながら、史料編の編集とこの連載を進めたい。



（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第8回 池田市ゆかりの作家達展「春を待つ」 ～2/月
- 水墨画・墨彩画二人展（楠泰雲・國井絹雲） 2/4(水)～9(月)
- 中塚モリトシ展（絵画） 2/11(祝)～16(月)
- 巽和子水彩画展 2/25(水)～3/2(月)

【ギャルリVEGA】

- Art studio夢工房半蔵作品展 ～2/2(月)
- 第12回 大野恵泉作品展
-歌川広重東海道五拾三次と花鳥画の世界- ～2/2(月)
- 2015カルチャーVEGA教室展PART1 2/4(水)～9(月)
- 梅花女子大学短期大学部
「生活の美アート展」 2/11(祝)～16(月)
- 2015カルチャーVEGA教室展PART2 2/25(水)～3/2(月)

【開館時間】

10:00～19:00（最終日は16:00）

【休館日】 火曜日、2/18(水)～23(月)

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉155,000円（ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより 116

「戦後」と「戦後池田」
について考える ②6

地域リーダーの軌跡

去年の1年間、この連載では1955（昭和30）年に始まる高度経済成長によって、池田市の姿がすっかり変わっていく様子を見た。社会の大変容は日本全体に起こったばかりか、世界的な現象であった。戦後70年を迎える今年も、引き続きこの時期について考えてみたい。

今回から数回、高度経済成長期に市議会議員として活躍した3人の人物を追ってみようと思う。地域リーダーの人物像には、何ほどかその地域社会の実情が映し出されているであろう。言うまでも無く、3人の人物を描いて地域社会の全貌をうかがえるわけではないし、これらの人たちが高度経済成長期の最も代表的な市議会議員だと断定はできない。しかし、この時期を考える上で、興味深い存在であるのは確かである。

『ひびき（響）』

最初に村田登美男元議員を取り上

げたい。村田元議員は、『ひびき（響）』と題する手記を公にしている（1985年刊）。その手記によって、人生航路をたどってみよう。誕生したのは、1918（大正7）年西市場（現豊島北一丁目）においてである。そこは村役場などのある北豊島村の中心で、周りには田園風景が広がっていた。大工の棟梁の父は、小学4年生のときに大きな借金を残して亡くなった。家計を助けるために新聞配達をし、進学をあきらめ小学校高等科から夜間の大阪工科大学に通った。

生活に追われながらも子どもころから、「組織づくりが好きであったように思われる」と回顧している。小学5年生で幼童会という会を作って会長になり、勉強会や祭りの子ども太鼓を始めたりした。長じては青年団団長として、祭りや盆踊りを仕切った。

模範的下士官の戦争体験

1940（昭和15）年1月、軍隊に入営した。派遣先は酷寒の内モンゴルである。所属は「響五三三三部隊」手記の表題『ひびき（響）』は、ここに由来する。入営後の激しい新兵教育も、「さほどつらいとは思わなかった」。上官から「君は軍隊に適していると思うので下士候を志願してみては」と勧められ、エリート養成の教導隊に派遣された。

教導隊を終え、同41年6月に内モ

ンゴル張家口にある旅団司令部の情報係勤務を命じられた。ここでも持ち前の熱心さと工夫で仕事をこなし、入営時の二等兵は、翌年には伍長、同42年に軍曹、44年に曹長に昇っていった。

同44年後半、「共産ゲリラのしゅん動」が激しくなり、情報室にゲリラ情報収集の拠点が置かれた。そこで、捕虜の取り調べも、火攻め、水攻めと昔ながらの映画のシーンそのものとなったが、その成果がつかぬに敵の組織系統図も立派にでき上がることもあった。天皇の「玉音放送」後、つまり敗戦すぐ後の8月19日に、ソ連軍が響兵団の陣地に押し寄せた。猛攻に耐えて陣地をもちこたえ、その間に居留民も軍隊も窮地を脱することができた。

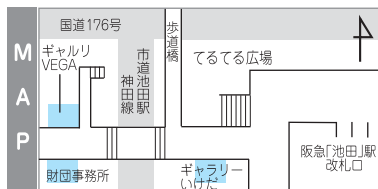


このように、村田元議員の戦争体験は模範的下士官の成功物語であった。子どもの頃からの苦労とこの戦争体験は、後の政治家・村田登美男元議員のバックボーンを形作ったと思われる。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 巽和子水彩画展 ~2(月)
- 秦井直太郎遺作展 3/4(水)~9(月)
- 薄井豊子水彩画展 3/11(水)~16(月)
- 安部南利水墨画展 3/18(水)~23(月)
- 三谷照男水彩画回顧展4 3/25(水)~30(月)

【ギャルリVEGA】

- 2015カルチャーVEGA教室展PART2 ~3/2(月)
- 第4回「色いろ絵画展」 3/4(水)~3/9(月)
- いけだ市民文化振興財団常設展 3/11(水)~16(月)
- ステンドグラスELAND' OR2015展 3/18(水)~23(月)
- 中塚モリトシ展 花とフランス(Ⅱ) 3/18(水)~23(月)
- 手づくり五人展 3/25(水)~30(月)

【開館時間】

10:00~19:00 (最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円 (展示販売不可) 〈ギャルリVEGA〉155,000円 (ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより⑪

「戦後」と「戦後池田」

⑰ について考える

前号に続き、「ひびき（響）」によって村田登美男元市議会議員の歩みをたどる。

戦後の地域活動

軍隊から復員したのは1946（昭和21）年3月。敗戦に伴う混乱のなか、生きるための闘いが始まる。梅田の闇市で芋飴を売り、配給米の精米、ナンバ粉（トウモロコシ粉）のせんべい焼きで稼いだ。次に配給パン取り扱い店を開き、豆腐製造業を始めた。戦時中に結婚し、二人の子どもを抱えての生活である。

少し余裕の出始めた33歳のころ、頼まれて大阪府豆腐油揚商協同組合の専務理事を引き受けた。地域での活動に一步を踏み出したのである。1952〜53年のころ、地元北豊島小学校でトラブルが発生した。PTAと青年団が共催して盆踊りを開催したところ、青年団の不満が爆発したという。PTA役員は年配者、青年団メンバーは第一線部隊から復

員した青年たちであった。共催といながら役員は一つ手伝わなかったというのが青年たちの不満である。調停を引き受けた村田元議員は、その不満は「至極もつとも」として青年団から一任を取り付け、役員と話し合った。「戦後の荒んだ青年達の気持ちを汲んでいただき、大先輩の皆さんは若い人達を育ててもらわなければならぬ」と話し、役員も納得し「円満無事に解決」した。

市議会議員への道

このトラブルを契機に、PTAの厚生委員長を務めることになった。運動会やバザーを開催してうどん、ぜんざい、すしなどを販売し、その利益で給食室を建てたり、理科教材などを調達して父兄や先生から喜ばれたという。市議会議員に保守系無所属として立候補したのは1955年4月である。周辺の「力強い支援を得て」9位で当選した。折から高度経済成長が始まっていた。

次回の選挙では、池田市議会選挙で初めて千票を超える票を得てトッ



五月ヶ丘団地内商業施設開業記念祝賀会（右から3人目、1961年）

プ当選、2期目ながら市議会副議長に就任した。1963年選挙の当選後には市議会議長に就いた。1967年選挙に当選後の1971年に、大阪府議会選挙に池田市選挙区から立候補したが落選。それを機に政界を引退したが、池田商工会議所副会頭を務めるなど経済界での活躍は続いた。

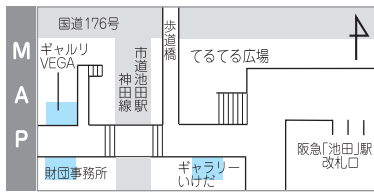
組織化された地縁

村田登美男元市議会議員の半生を見て印象深いのは、戦前と戦後を通じた生き方の共通性である。どんな仕事もこなす熱心さ、軍隊のためであれ地域のためであれ働く精力ぶりと仲間内の人間関係を保つ世話役としての力量。それは軍隊では有能な下士官の役割を果たし、戦後では地縁を頼りに市議会議員に当選して活躍する源泉であった。高度経済成長長期に池田市議会の一方を構成したのは、多かれ少なかれ戦前・戦後をこのように生き抜いた人たちと思われる。ただ、顔なじみの支持だけでなく、業界団体・PTAなど組織化された地縁を政治地盤にした村田元議員の場合、後に見るように次第に組織選挙の様相を濃くした高度経済成長期における池田市議会の傾向を先取りするものでもあった。

（池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 野上浩司絵画展 4/1(水)～6(月)
- 明河喜三郎写真展「楽園」 4/8(水)～13(月)
- 白井武志水彩画展 4/15(水)～20(月)
- “おーい雲'15” 礎貴代司パステル画展 4/22(水)～27(月)
- 長井正義・森邦彦二人展（絵画） 4/29(祝)～5/4(祝)

【ギャルリVEGA】

- 2015カルチャーVEGA教室展PART3（フラワーアレンジ） 4/1(水)～6(月)
- 木と布 手仕事の仲間展 4/1(水)～6(月)
- 2015カルチャーVEGA教室展PART4（絵画） 4/8(水)～13(月)
- 内田雅作陶展 4/8(水)～13(月)
- TERI'Sバッグ教室作品展PART6 4/15(水)～20(月)
- 見野大介陶芸展 4/22(水)～27(月)
- 奈良逸品家具 4/22(水)～27(月)
- 長井正義・森邦彦絵画合同教室展 4/29(祝)～5/4(祝)

【開館時間】

10:00～19:00（最終日は16:00）

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円（展示販売不可）〈ギャルリVEGA〉155,000円（ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可）

【使用期間】 水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
☎750・3333

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより(118)

「戦後」と「戦後池田」
について考える(28)

戦後革新勢力

「戦後革新勢力」という言葉は、もう死語になったのだろうか。清水慎三『戦後革新勢力』がその成立・変遷のプロセスを詳細に論じている。ただし、本の刊行は1966(昭和41)年で約半世紀前である。

戦後の保守政権の路線に対抗したのが革新勢力といえる。例えば保守政権が実施した片面講和に対し全面講和、アメリカとの同盟(安保条約)に対し中立、再軍備に対し非武装、「逆コース」に対し民主主義擁護など。



都市提携調印式(右端、1965年)

戦後革新勢力を支えたのは、戦争体験と戦後改革による民主化の体験である。1950年からの復興期以後に、この戦後体験をバネにして国民運動が高まった。運動を担ったのが、総評・社会党や

全学連、共産党などである。清水は運動は団体中心に展開されたが、その主張を受け入れる広範な国民の存在があったと述べる。

しかし、1960年の反安保闘争後に国民運動は退潮した。経済が急成長するなか、組織の分裂と国民の脱革新化が進行したのである。そのただ中清水は革新勢力が戦後に「定着し、そこを居食いし続けていて良いものかどうか」と問うている。戦後体験に安住し続けることへの反省と警告であろう。半世紀後の今日、その言葉は改めて新鮮に感じられる。

三木会への参加

奥村靖一元議員は、革新勢力から池田市議会にデビューし、やがて何度も議長に就くなど、有力議員として活躍した人である。奥村元議員には2007(平成19)年に会い、回顧談を伺った。その記録などから戦中の奥村元議員について見てみよう。当時、池田にあった大阪第二師範学校(現大阪教育大学)を卒業したのが、1943(昭和18)年である。それについては、「師範学校いうたらだいたい銭いらなんだ」「学校の先生させたら兵隊に行かんぞええと親思ったんやろ」と述べている。師範学校卒業後、最初に勤めたのは、池田市の昭和国民学校であった。戦局が次第に不利に傾き、軍国主義が一層狂気を帯びた頃である。そんな中、職場で運命的な出会いがあっ

た。村上高信教頭である。村上は、池田の先生を集めて第三木曜日に会合を持つ三木会を主宰していた。20人程度の参加者で、奥村元議員も参加した。

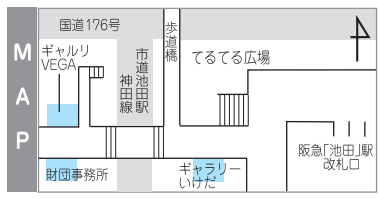
同会について、後に村上自身が語っている。「戦中は、教師にも、丸刈りと国民服が強要された」。しかし、それに従わなかった。「反戦思想というより、このような不合理に対して、合理主義で抵抗した」「向学心に燃え、真理の追求ということ」三木会という学習会をもった(『池教組35年のたたかい』)。

敗戦体験

奥村元議員は、「村上さんの考え方に、非常に(影響を)受けてます」と話している。しかし教師勤めを始めて半年も経たない1944年3月、軍隊に入営した。敗戦を告げる「玉音放送」は、和歌山市の外れの「どっかの学校の運動場なんかで」聞いた。「まあ、しゃあないなあ、と思ってた。こんなもんやろと思てた」。敗戦の感想は冷めている。村上との出会いや三木会への参加によって、もともと戦争に批判的だったからであろう。前号までに見た村田登美男元議員とは違った意味で、奥村元議員の戦前と戦後は連続していた。(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 長井正義・森邦彦二人展(絵画) ~5/4(祝)
- 一氏法香墨画展 5/6(休)~11(月)
- 造形作家西村滋作品展 5/13(休)~18(月)
- 井上浩三陶展 5/20(休)~25(月)
- KIMONO:ピフォア/After(ジュディス・リッター) 5/27(休)~6/1(月)

【ギャルリVEGA】

- 長井正義・森邦彦合同絵画教室展 ~5/4(祝)
- 河野俊也個展(絵画) 5/6(休)~11(月)
- 墨の調べ三人展(墨画) 5/6(休)~11(月)
- 2015ザ・スペース小品展(絵画) 5/13(休)~18(月)
- ひじり会展(絵画) 5/20(休)~25(月)
- 大阪空港カルチャースクール 箕面駅前スクール第13回展(絵画) 5/27(休)~6/1(月)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円(展示販売不可)〈ギャルリVEGA〉155,000円(ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより(19)

「戦後」と「戦後池田」

29 について考える

下からの民主化

奥村靖一元議員について、前号に
続いて見ていきたい。

1946(昭和21)年4月、池田
市教員組合(以下、池教組)が産声
を上げた。中心になったのが北豊島
小学校校長の荒木正三郎と前号で触
れた三木会(さんもくかい)の主宰
者・村上高信である。

村上高信は三木会の参加者が「後の組
合づくりの主要なメンバーとなっ
た」と語っている(『池教組35年の
たたかい』)。三木会メンバーであつ
た奥村元議員も、軍隊から復員して
すぐに昭和国民学校に復職し、池教
組結成の活動に奔走した。

組合の結成大会当日のこと。「校
長さんたちは、
いつものように
壇上に座ろうと
されたので」「そ
こは執行委員が
座るところです。
校長先生はここ



昭和国民学校があった池田中学校

らへ」といって、平場へ案内した「組
合は、世の中を変えるものだと思感
した」。そのとき組合青年部長の奥
村元議員が、そう回顧している(前
掲)。当時は校長も組合員だったが、
組合員としては平教員と平等と考え、
校長は上との「いつものよう」な序
列を変えさせたのである。下からの
民主改革の息吹が伝わってくる。

市議会議員へ

戦後2回目となる池田市議会議員
選挙が、1951年4月に行われた。
奥村元議員は池教組推薦候補として
見事当選を果たした。同じ選挙で、
森田シズが女性議員、西野恒次郎が
共産党議員として初めて市議会に登
場し、西野議員26歳、奥村と原田孝
議員の27歳など若手が台頭した。

奥村元議員は選挙について、池教
組推薦なので「近所の人に世話にな
ったことない」「とりあえずは無所
属で出ましたけども、社会党で出て
ました」と語っている。その後も長
く、池教組推薦、社会党会派の中心
として高位当選を重ねた。

当時の社会党会派は少なくとも非
与党であった。1953年3月の市
議会に、奥村元議員が提案者となつ
て社・共両会派が、市議会に武田義
三市長不信任案を提出している。圧
倒的な多数を占める与党会派によつ
て否決されたのだが。

とはいえ、奥村元議員は戦中から
武田市長と親しい間柄であった。昭

和国民学校保護者会の会長が武田で、
出征する際に見送りに来て「先生死
んだらあきまへんで」と励ましてく
れた。また、1947年の武田初出
馬の市長選のとき、池教組は「その
革新的体質を評価して」武田を推薦
したという(奥村著「歩み」)。

高成長と革新の立場

その後、1983年まで9期連続
当選し、1957年市議会副議長、
1959年には社会党として初めて
の議長に就任した。議長には、19
80年まで5度選出された。奥村元
議員は武田市長との親密ぶりを「市
会終わるごとに一杯一緒に飲みに行
ったり。人も誰も入れんと、二人だ
けで一杯一緒に飲みました」と話し
ている。

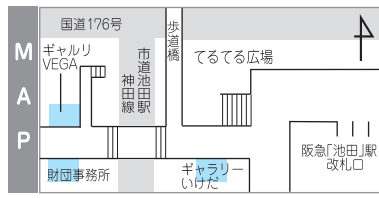
高度経済成長期に奥村元議員は、
武田市長を支える最有力の議員にな
った。その最中の1970年7月、
社会党を離党した。離党の理由は、
党の利益、党勢の発展より、市民の
利益、市勢の発展を「最優先に考え
ねばならぬ」と思うに至ったからと
いう(『池田新聞』)。

社会党は、戦後革新勢力の要であ
った。高度成長期を迎え、奥村元議
員の革新の立場に揺らぎが生じたの
だろうか。

(池田市史編纂委員会副委員長・
芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史
編纂(☎754・6674)

ギャラリー コーナー



【ギャラリーいけだ】

- KIMONO:ピフォア/After (ジュディス・リッター) ~6/1(月)
- 山路均 第7回油彩展 6/3(水)~8(月)
- 中川洋一 個展(絵画) 6/10(水)~15(月)
- 前田浩 風景画展 6/17(水)~22(月)
- 美濃益子・阪口則子 絵画展 6/24(水)~29(月)

【ギャラリーVEGA】

- 大阪空港カルチャースクール
箕面駅前スクール第13回展(絵画) ~6/1(月)
- キルティングikkoのPATCHワーク展 6/3(水)~8(月)
- グループ「らぶ」第32回クロッキー展 6/10(水)~15(月)
- アートスペース半蔵 作品展 6/17(水)~22(月)
- 第9回生陶楽啓 作陶展 6/17(水)~22(月)
- 第39回近代日本美術協会大阪支部小品展(絵画) 6/24(水)~29(月)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000円(展示販売不可)
〈ギャラリーVEGA〉155,000円(ブロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)